ミンクの手ざわり（1962）

THAT TOUCH OF MINK

メディア 映画
ジャンル コメディ　ロマンス
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 99分
初公開日 1962/09/29
公開情報 ＵＮＩ

【解説】

これは多くの女性垂涎のシンデレラ・ストーリーの、そのまたパロディとして抜群におかしな、Ｄ・デイのフェミニン・コメディだ。「夜を楽しく」「恋人よ帰れ」と続いたロック・ハドソンとのコンビ作の路線だが、今回のお相手はロマンス・グレイのＣ・グラント。断然艶っぽさが違うのだ。

職探しに奔走する失業ＯＬのキャシーは地下鉄でもまれ、路上に出た途端、財閥のタイクーン、シェインの車に泥をはねられカンカン（そこで始まるタイトルがまた流麗）。自社ビル正面の簡易食堂で、女給をするルームメイトのコニー（メドウズ）に食事をたかりに来た彼女を目撃したシェインは、親友で会計監査役のロジャー（ヤング）を使いに出し、彼女に弁償しようとするが、直接逢って金を突き返すといきまくキャシーに、ロジャーはいつものように友に遊ばれるだけで終わらぬ強い個性を感じる。彼女を彼と結びつけたら、友のお目付役から解放され、経済の学究生活に戻れるのではと期待したのだ（このキャラクターは興味深く、彼と分析医のやりとりの脇スジが実に傑作）。彼の読みの通り、互いに一目惚れのキャシーとシェイン。彼女の助言を評価した彼はいきなり会社買収の相手先に彼女を連れ、自家用機でボルティモアへ。見事商談成立、食事はフィラデルフィア、そしてヤンキースの試合をベンチから観戦（彼女の野次に怒った審判がその意見に同調したＭ・マントルを始めとするヤンキースのスターを次々と退場に！）。そして定石通り、バミューダの豪華ホテルに投宿するのだが、あまりにもまっすぐ育った田舎出の彼女には正攻法が通じない。周囲のやきもきをよそに一旦はすれ違いに終わりかける二人の仲だったが……。で、これからが面白いのだ。始めに伏線的に登場した“史上最悪の男”、職安のスケベ係員ビーズリーをシェインの気を引くオトリとして利用しての抱腹絶倒の大ドタバタ。この辺りの呼吸とフザけたオチはご自分の目で確かめて戴きましょう。ともかく、この頃のデイは少し肥えてきてお色気も充分。けれど品があって、向かう所敵無しのコメディエンヌだ。

【クレジット】

監督	デルバート・マン	Delbert Mann	
製作	スタンリー・シャピロ	Stanley Shapiro	
	マーティン・メルチャー	Martin Melcher	
製作総指揮	ロバート・アーサー	Robert Arthur	
脚本	スタンリー・シャピロ	Stanley Shapiro	
	ネイト・モナスター	Nate Monaster	
撮影	ラッセル・メティ	Russell Metty	
編集	テッド・Ｊ・ケント	Ted J. Kent	
音楽	ジョージ・ダニング	George Duning	
出演	ケイリー・グラント	Cary Grant	フィリップ・シェイン
	ドリス・デイ	Doris Day	キャシー・ティンバーレイク
	オードリー・メドウズ	Audrey Meadows	コニー・エマーソン
	ギグ・ヤング	Gig Young	ロジャー

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ジョン・アスティン	John Astin	エヴェレット・ビズリー
アラン・ヒューイット	Alan Hewitt	ドクター・グルーバー
ジョン・フィードラー	John Fiedler	スミス
ディック・サージェント	Dick Sargent	
ローリー・ミッチェル	Laurie Mitchell	
ウィラード・セイジ		

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.